日本と世界を直撃する

マネー大動乱

増田悦佐

masuda etsusuke

マガジンハウス

日本と世界を直撃する マネー大動乱

増田悦佐
masuda etsusuke

愛知大学図書館
蔵書 印

マガジンハウス

増田悦佐
(ますだ・えつすけ)

1949年、東京都生まれ。一橋大学大学院経済学研究科修了後、ジョンズ・ホプキンス大学大学院で歴史学・経済学の博士課程修了。ニューヨーク州立大学助教授を経て、外資系証券会社で建設・住宅・不動産担当アナリストを務める。現在、(株) ジパング経営戦略本部シニアアナリスト。著書は、『それでも「日本は死なない」これだけの理由』(講談社)、『2012年・空前の日本投資ブームが始まる』(PHP研究所)、『日本と世界を揺り動かす物凄いこと』(マガジンハウス) ほか多数。

装丁・デザイン――山田英春

日本と世界を直撃するマネー大動乱

2012年1月19日　第1刷発行
2012年2月2日　第2刷発行

著者……**増田悦佐**
発行者……**石崎 孟**
発行所……**株式会社マガジンハウス**
〒104-8003　東京都中央区銀座3-13-10
電話　書籍編集部　03-3545-7030
受注センター　049-275-1811

印刷・製本……**株式会社リーブルテック**

©2012 Etsusuke Masuda, Printed in Japan
ISBN978-4-8387-2370-6　C0095

乱丁本・落丁本は購入書店明記のうえ、小社製作部宛にお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。定価はカバーと帯に表示してあります。
本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）は禁じられています（但し、著作権法上での例外は除く）。断りなくスキャンやデジタル化することは著作権法違反に問われる可能性があります。

マガジンハウスのホームページ　http://magazineworld.jp/

日本と世界を直撃するマネー大動乱——◉目次

はじめに——1

第一章 全米市民もようやく目覚めたのか アメリカは財務省・ウォール街複合体に潰される!?

❖半世紀ぶりのデモは格差社会、貧困社会への怒りがエネルギー!——14
❖立ち上がった全米市民はもう騙されない……のか!?——16
❖政治への虚無感がデモに走らせた?——20
❖上位一パーセントの総取り!——22
❖アメリカの失業率は高水域から抜け出せない!——26
❖一握りのエリートの儲け仕事と、その他大勢用のハンパ仕事に分化——28
❖アメリカ市民を食いものにする政府と金融業——30
❖「国家は破産しない!」と無定見に投資したシティバンクが生き残った理由——32
❖なぜここまで格差が広がってしまったのか?——35

❖アメリカが抱える「罪と罰」——39
❖三年で賞味期限が切れた最悪の大統領——42
❖利権の構造は個人プレーではない！——44

第二章 アメリカの金権社会は、荒療治でしか直せない

❖なんとも不明朗なリーマンとベア・スターンズが潰された事情——48
❖短期間にこれほど金融取引が肥大していたとは！——52
❖アメリカ金融業界は、乱脈をきわめた住宅金融から腐っていった——55
❖〝優勝〟は大穴にさらわれたが、アメリカの金融危機はこれからが本番だ——58
❖富裕層増税を訴える「バフェット・ルール」は穴だらけ——61
❖不況下の好業績は「地獄」を意味する——65
❖移民大国は一人アタマの取り分が減る一方である！——67
❖給与水準格差が大きいアメリカ、格差の小さな日本——69

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第三章

悪夢と化したアメリカン・ドリームとこれから隆盛するジャパニーズ・ドリーム

❖世界一医療費の高いアメリカでも七八・三歳、最低の北朝鮮でも六七・三歳という平均寿命——74
❖高利の学費ローン破綻が急増している！——76
❖強欲資本主義に対する数千人規模の抗議デモは二年前に行われていた！——80
❖再選不可能！　オバマの「エネルギー独立宣言」は大失敗！——82
❖アメリカはドル安で生き抜くしかない？——86
❖世にもおぞましい殺戮劇——88
❖もういい加減に日本悲観論から脱却せよ！——90
❖アメリカがいままで債務不履行しなかった理由——93
❖ドルに金の縛りという歯止めが利かなくなって、借金が際限なく膨らんだ！——95
❖格付け会社ほど信用できないものはない！——98
❖破綻の直前までトリプルA！——101
❖債務残高上限枠引き上げのすったもんだはどうして起きたのか？——103
❖外国人投資家が米国債を保有する意味はすでになくなっている！——107

❖アメリカの財務はすでに日本とは比較にならないほど悪化していた！——109
❖連邦準備制度などないほうがいい！——112
❖ツイスト作戦は、またしても惨敗する——116
❖潰せない金融機関など世界中に一社も存在しない——119

第四章 ほんとうに危ないのはドイツとイギリス 復活は永遠にありえないユーロ経済の真実

❖会議は踊る、されど進まず——124
❖包括戦略が毛虫ウジャウジャの缶を開けてしまった——126
❖どう転んでも、CDSの処理は無事には済まない——129
❖救済資金でカバーできるのはスペインまで、イタリアは救済できない！——131
❖ギリシャ危機は、いったいどうなっているのか!?——133
❖一〇〇パーセントを超えた国債利回り！——137
❖フランス国債はすでに中国並みに下落している！——139
❖笑止千万の少子化対策——142

❖ドイツはイタリアと心中するのか？——145
❖ユーロなどなかったほうがヨーロッパは幸せだった！——149
❖ヨーロッパの失業率悪化が止まらない！——152
❖金融機関の大リストラが始まっている！——154
❖あの銀行のストレステストはウソだった！——156
❖CDS保証料率の急上昇が意味すること——158
❖イギリス経済は真っ暗闇だ！——160
❖金に対してポンドは一方的に下げ、ユーロは過大評価を受けていた！——163
❖日本がユーロに介入してもなんの効果もない——166
❖危機の時代にはおいしい儲け話がたくさん転がっている！——168
❖だれもヨーロッパを救うことはできない！——171

第五章 明らかに変調する中国 崩壊へのカウントダウンはすでに始まっている！

❖リーマン・ショック以降、中国がおかしい！——176

❖個人消費の半額分という巨費が、不動産転がしに使われていた！——179
❖どれだけ事故を起こそうと続くはずだった鉄道建設にストップがかかった——182
❖まだ終わらない胡錦濤と江沢民の権力争い——186
❖他人のふんどしで相撲を取ってきた中国——188
❖為替政策で右往左往——191
❖ユーロ危機で輸出にブレーキ！——193
❖レアアースを外交カードにした中国の愚——194
❖資源戦略も失敗続き——197
❖中国の軍備拡張はすべて国民向けのデモンストレーションだ！——200
❖中国の空母はまったく脅威にはならない！——203
❖政治力、外交力のない中国——205
❖極度に暴動を恐れる中国——208
❖人民元は米ドルと共通通貨圏をつくって生きていく？——211

第六章 なぜかマスメディアは絶対報道しない 日本と金だけが一人勝ちする世界

❖マスメディアが黙殺する「一人勝ちする日本」——216
❖ソニーは外国人社長になってからダメになった——217
❖中枢部門を海外に移転させたらGMの二の舞になる！——219
❖日本の国債ほど健全で信頼できる金融商品はない！——221
❖官公庁部門の比率は、日本がいちばんバランスがいい——224
❖北欧の高福祉・安定成長はキャリートレードのおかげだった——225
❖危機が深刻になるほど金が注目される！——227
❖新興国が積極的に金を購入している理由——229
❖売りどきはまさに八月下旬から九月上旬だった！
　またも実証された日本の個人投資家の冴えわたる相場観——232
❖金はほとんど唯一の、インフレにもデフレにも強い金融商品——234
❖金で通貨を評価すると、見えなかったものが見えてくる！——237
❖なぜ金だけがこれほど堅調なのか？——240
おわりに——243

はじめに

二〇一二年はどんな年になるのだろうか。

一つだけ確実に言えることがある。アメリカもヨーロッパも二〇一一年の初夏あたりから噴出し始めた問題を無事解決するどころか、問題はますます深刻化し、多岐化していくだろうということだ。

中国をはじめとする新興国は、二〇一一年まではなんとか化けの皮もはがれず、高成長を維持してきた。だが、二〇一二年にはそろそろ隠しきれないボロが出てくるだろう。

世界中が、大暴風雨に見舞われたような経済環境になる。その中で、変わらぬ価値を光り輝かせるものが二つある。金と日本経済だ。

この本では、どうしてそうなるのかを、順を追って説明していきたい。

前半では、アメリカの社会と経済のウソとまことを暴いていく。一方的に巨大企業と金融機関ばかりが儲かるシステムや、インフレという名の借金踏み倒し経済の震源地だ。現代経済の問題点を解明するには、ここに最大の力点を置かなければならない。

第一章では、なぜあれほどみごとに知的エリートたちによって飼い慣らされていたアメリカの大衆がついに反逆に立ち上がったのかを描き出す。日本のこととなると、度はずれた悲観論ばかり書

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

きたてる日本のマスコミは、いまだに欧米社会についてはなに一つ実証的な根拠のない楽観論をふりまいている。

だが、きちんとしたデータを比べてみれば、アメリカではどんなに凄まじいペースで格差社会化が進んでいるかお分かりいただけるだろう。いままではおとなしく飼い慣らされた大衆でも、これでは抵抗せざるをえないことが納得できるはずだ。

第二章では、いまや文字どおり百鬼夜行状態を呈している金融業界の内幕と、この金融業界が先頭に立って拡大しつづけたアメリカの所得格差や、移民大国の実態に迫る。日本の経営者の「不祥事」は、せいぜい自分たちの愚鈍さで空けた財テクの大穴を必死になって隠しとおそうとして墓穴を掘る程度のかわいいものだ。

それと比べて、堂々と悪事を働きながら「客の無知を利用して儲けて何が悪い」と居直るアメリカの一流金融機関の経営者たちは、立派と言えば立派なのだろう。だが、そのために慢性的な低所得と高失業率に悩まされる一般大衆にとっては、たまったものではない。

第三章では、インフレ擁護論、インフレ待望論を論破する。日本には、いまだに「デフレは貧乏人の敵で、インフレは貧乏人の味方だ」というような、箸にも棒にもかからない大ウソを垂れ流す連中がいる。だが、インフレは絶対にあらゆる商品やサービスに均等に現れる現象ではない。庶民にとっていちばん節約しにくいところを狙い撃ちして、えげつなく貧乏人を苦しめている。

さらに、世界各国の中央銀行や格付け機関が寄ってたかって、アメリカ連邦政府財務省と連邦準備制度（Ｆｅｄ）のインフレを永続させようとする政策の走狗となっていることも暴き出す。この

持続的なインフレこそが、アメリカ人が延々と稼ぎよりもいい生活をしつづけ、世界中の国家や一流企業や大手金融機関が一般大衆からカネを巻き上げつづける仕組みなのだ。

後半では、ヨーロッパ、中国、日本の経済情勢と、危機が深まるほど高まる金の価値について考察する。アメリカに比べて駆け足の点描という印象を持たれるかもしれないが、要点は網羅したつもりだ。

第四章では、基本的にヨーロッパ諸国の危機は、いつまでに収拾できるのか、いつごろから回復が始まるのかというような悠長な話ではないことを立証する。ヨーロッパ経済でいちばん深刻な問題は、ギリシャ国債やイタリア国債の「高金利」はちっとも高金利ではなく、一九九三～九四年ころまでの常態に戻っただけだというところにある。ユーロという人工通貨が出回り始めた二〇〇二年からの低金利がバブルだったのだ。

平然と「借金をしすぎて困ったら踏み倒せばいい」と思って、返済のメドもなく負債を増やしつづけた連中を救おうなどとしたら、ドイツのようにまともな国でも破綻する危険がある。ましてや、イギリスやフランスのように自国経済が慢性的な経常赤字という国々は、即お陀仏だ。ユーロ圏とイギリスにはもう、どれだけ文明圏としての没落をゆるやかにするかという課題しか残されていない。

第五章では、中国経済に現れた変調の兆しを解明する。国民の生活水準向上にはほとんど貢献しない過剰投資でなんとか高度成長の体面を取りつくろっていた中国は、いまこうした資源浪費型成

長経済の矛盾があちこちで噴出している。

上は政府官僚から共産党幹部、人民解放軍幹部までひっくるめたワイロ体質から、下は付け届けなしにはどんなに重要な社会・生活インフラも機能しない仕組みまで、破綻寸前だ。だからこそ、自国民を威圧する以外にはほとんどなんの役にも立たない張りぼて空母を見せびらかしたりするのだ。

第六章では、見てきたとおりの欧米諸国と中国の惨状に比べて、日本がいかに平和で豊かで健全な経済を育ててきたかを、実証データを駆使して論証する。そして、だからこそ、日本は潤沢な対外純資産や外貨準備をなるべく速やかに金に換えるべきだと主張する。

日本と世界を直撃するマネー大動乱——◉目次

はじめに——1

第一章 全米市民もようやく目覚めたのか アメリカは財務省・ウォール街複合体に潰される!?

❖半世紀ぶりのデモは格差社会、貧困社会への怒りがエネルギー!——14
❖立ち上がった全米市民はもう騙されない……のか!?——16
❖政治への虚無感がデモに走らせた?——20
❖上位一パーセントの総取り!——22
❖アメリカの失業率は高水域から抜け出せない!——26
❖一握りのエリートの儲け仕事と、その他大勢用のハンパ仕事に分化——28
❖アメリカ市民を食いものにする政府と金融業——30
❖「国家は破産しない!」と無定見に投資したシティバンクが生き残った理由——32
❖なぜここまで格差が広がってしまったのか?——35

❖アメリカが抱える「罪と罰」——39
❖三年で賞味期限が切れた最悪の大統領——42
❖利権の構造は個人プレーではない！——44

第二章 アメリカの金権社会は、荒療治でしか直せない

❖なんとも不明朗なリーマンとベア・スターンズが潰された事情——48
❖短期間にこれほど金融取引が肥大していたとは！——52
❖アメリカ金融業界は、乱脈をきわめた住宅金融から腐っていった——55
❖〝優勝〟は大穴にさらわれたが、アメリカの金融危機はこれからが本番だ——58
❖富裕層増税を訴える「バフェット・ルール」は穴だらけ——61
❖不況下の好業績は「地獄」を意味する——65
❖移民大国は一人アタマの取り分が減る一方である！——67
❖給与水準格差が大きいアメリカ、格差の小さな日本——69

第三章 悪夢と化したアメリカン・ドリームとこれから隆盛するジャパニーズ・ドリーム

❖世界一医療費の高いアメリカでも七八・三歳、最低の北朝鮮でも六七・三歳という平均寿命——74
❖高利の学費ローン破綻が急増している！——76
❖強欲資本主義に対する数千人規模の抗議デモは二年前に行われていた！——80
❖再選不可能！　オバマの「エネルギー独立宣言」は大失敗！——82
❖アメリカはドル安で生き抜くしかない？——86
❖世にもおぞましい殺戮劇——88
❖もういい加減に日本悲観論から脱却せよ！——90
❖アメリカがいままで債務不履行しなかった理由——93
❖ドルに金の縛りという歯止めが利かなくなって、借金が際限なく膨らんだ！——95
❖格付け会社ほど信用できないものはない！——98
❖破綻の直前までトリプルA！——101
❖債務残高上限枠引き上げのすったもんだはどうして起きたのか？——103
❖外国人投資家が米国債を保有する意味はすでになくなっている！——107

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com